

## 日米株式市場の下落について

### 逆イールドの発生で米国景気への懸念が高まる

2019年8月15日

### 逆イールド状態が継続するか否かがポイント

8月14日（現地、以下同じ）の米国株式市場はS&P500指数が前日比▲2.93%と大きく下落し、国内株式市場もTOPIX（東証株価指数）が15日の前場終値で前日比▲1.18%と下落しました。

きっかけは14日に発表された中国の経済統計において、鉱工業生産や小売売上高など複数の統計で伸び率が前月から鈍化し中国の景気減速が意識されたことや、ドイツの2019年4-6月期のGDPが前期比でマイナス成長となったこと、そして、これらを受け10年米国債の利回りが2年米国債の利回りを下回るいわゆる逆イールドが発生したことです。一般に景気後退のシグナルとされる逆イールドが発生したことで、米国景気への懸念が高まり株価は大きく下落しました。

1990年以降の3回の米国景気後退局面と逆イールドの関係をみると、景気後退局面入りの前に揃って逆イールドが一定期間継続しています。しかし、逆イールドが短期で終息したケースもあることや、一定期間逆イールドが継続した場合でも当初逆イールドが発生してから実際に景気後退局面に至るにはある程度時間（おおむね1年半程度）がかかっていることから、逆イールドの発生は即座に米国が景気後退に陥ることを示すものではありません。

それでも、世界経済のモメンタムが低下傾向にある中、米中通商摩擦や英国のEU（欧州連合）離脱問題、香港のデモなど政治的問題が経済に与える影響が拡大するリスクもあり、経済、金融環境への不透明感が高まっていることは否めません。まずは、これら各種不透明要素の動向に注意しつつ、各国中央銀行の政策や景気対策の動向などをウォッチし、米国の逆イールド状態が短期で終息するか否かを見極める必要があると考えます。

#### 米国長短金利差（10年-2年）と米国景気サイクル



（注）灰色は米国景気後退期 （出所）Bloomberg、NBER

#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。